聞蔵IIビジュアル(C) The Asahi Shimbun Company. All rights reserved.　駒澤大学図書館　2011/07/20 19:27

朝日新聞 夕刊
朝日新聞東京本社
東京都千代田区有楽町2丁目3番地
電話(03)212-0131(代)100
© 朝日新聞東京本社 1973

伏見の清酒
メイヨウカン
名誉冠
山辰醸

石油生産を削減
アラブ十ヵ国会議決定

九月基準に毎月五%
占領地解放まで続行

【ベイルート十七日＝川上特派員】中東戦争に石油を武器として使うことをうたって十七日クウェートで開かれたアラブ石油輸出国機構（OAPEC）の閣僚会議は、同日夜、イスラエルを支援する米国その他の国に対する抗議として、石油の生産を九月を基準に五%削減し、その後も毎月、前月の五%ずつ「削減していくことを決めた。この措置はイスラエルに占領されているアラブの領土が解放され、パレスチナ人民の権利が回復されるまで続ける、としている。これは首脳の原油価格引き上げ通告に次いで、石油消費国に向かってずばり出された新たなパンチであり、中東戦争は一段と石油戦争の様相を深めた。

（2面に関係記事）

中東戦争ぼっ発後、シリアの石油タンク破壊、戦争の惨害を恐れたサウジアラビアのアラムコのパイプ輸送量削減により、アラブ産油国の世界市場への供給量は一日百二十万～百五十万バレルの減少を示している。これはふだんの世界の石油消費量に対して供給量が持っている余裕をちょうどゼロにする量であり、これに加えて今度の生産の削減措置により、世界の石油不足が一段つのることは必至である。

前回の六七年の第三次中東戦争でも、アラブ産油国は石油禁輸の姿勢を打ち出したが、自らの首を絞めしめる結果となり長続きしなかった。今度は七年前とはべつ、各国の外貨蓄積は飛躍的に増え、"耐久力"は十分だし、輸出減少の分は原油価格の値上げで十分に補えるし、その気になれば半年もしくはそれ以上輸出制限を続けることも可能だ、とベイルートの石油閣僚筋はみている。

もっとも、西欧、中東の石油消費筋は今回の削減の幅を一〇%前後と予想していた。その意味では予想を下回ったともいえる。また削減の幅が、段階が引けば緩和されるなどなにふれるようになっている点は、条件次第では一定の段階で措置を緩める意向ともみられる。

この会議は戦争開始三日目の去る八日以来クウェートが招聘、十七日は朝から八時間にわたった。すでに戦費資金と軍隊を提供しているアラブ各国が陸海空三軍に次いで「第四軍」としての石油の実力と、アラブの団結を誇示したものであり、会議の進行中、パレスチナ解放機関から会議参加の石油大臣たちに「米国への石油輸出中止と、米国製品の全面的ボイコット」の訴えが届けられたほどである。

アラブ各国は米国の対イスラエル向け武器船積みの報に限度を強化させてきた。今度の締めつけの対象として名指しであげられているのは米国だけであり、同会議の声明は「この決定はアラブの友好国を害するものではなく、友好国には従来通り供給する」と強調している。しかしアラブ側がイスラエル支援としている米国その他の国々の中に英、仏などが含まれているかどうかは明らかでない。

だが、アラブ側がおもなねらいとしている米国は、その消費量の六%を中東に依存しているにすぎない。このためアラブ側がたとえ友好国を害するつもりはないとしてもそう受けるのは英、仏、西独をはじめとする西欧各国と日本とみられている。

（2面に関係記事）

ベトナム民主共和国のベトナム祖国戦線中央委員会代表団が二十六日から十日間、日本を訪れることになった。日本との国交樹立後、初めての北ベトナムからの政治代表団で、日本の各界との交流、親善を目的としている。

代表団はホン・コック・ベト団長（ベトナム祖国戦線幹部会員、ベトナム労働総同盟議長、最高人民検察庁長官）のほか六人。社会、共産党党員、総評、中立労連、ベトナム民主共和国援日本委員会、日本科学者会議の共同招待に応じたものである。

北ベトナム国交後初の政治代表団が来日へ

対象 イスラエル支援国

17日、クウェートで開かれたアラブ石油輸出国機構（OAPEC）の石油担当者会議　＝UPI＝サン

【ワシントン十七日＝大谷特派員】ニクソン米大統領は十七日、ホワイトハウスでアラブ四カ国の外相と会談し、"石油戦略"の発動を撤回、親善、和解を目的とする「対話」を呼びかけるなどの提案を行なった。

米大統領・アラブ四外相会談 断層は縮まらず

公正な解決で一致

ニクソン大統領とアラブ四カ国の外相との会談は、国連総会に出席するためニューヨークに滞在中のサウジアラビア、アルジェリア、モロッコ、クウェートの各外相の要請で行われたもので、四外相は中東十六カ国の立場を代表しているとされ、会談の内容は、国連総会で国際的に強い影響を及ぼすとみられている。

四外相はまずこの国際情勢でキッシンジャー長官と会談したが、サウジアラビアのアルサカフ外相は、「話し合いは有益だった。中東解決に関して米国は、ベトナム和平と同じような役割を果たせるかどうかは、公正な平和解決を目ざすという点で全関係国は一致している」と述べた。が、ソ連の兵器補給に関し、イスラエル支援を強化する米国と、石油生産の削減でその援助努力にブレーキをかけようとするアラブ側の歩み寄りが縮まった兆候はない。

この会議は、国連総会に出席するためニューヨークに滞在中のサウジアラビア、アルジェリア、モロッコ、クウェートの各外相の要請で急遽開かれたもので、四外相は中東十六カ国の立場を代表しているとされ、会議